

「生まれつき足の不自由な人の癒し」

使徒3:1~11

1. はじめに

(1) ペンテコステの日に教会が誕生した。

①ペテロの第1回目のメッセージにより、3,000人ほどの人たちが弟子となった。

②初代教会は、暖かさと畏怖の念が共存する群れであった。

③3:1~4:31まで、教会への最初の迫害が記録されている。

(2) 前回のメッセージで確認した初代教会の描写

①使2:42~43

Act 2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをして
いた。

Act 2:43 そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議としるしが行われ
た。

②「不思議」は「テラス」。畏怖の念を引き起こす奇跡。

③「しるし」は「セイメイオン」。使徒たちの権威を証明する奇跡。

④きょうの箇所ではルカは、忘れがたいひとつの奇跡を取り上げている。

*迫害が始まるきっかけとなった奇跡である。

*ペテロに2回目のメッセージを語る機会を与えた奇跡である。

*その結果、5,000人ほどの人たちが信じた。

(3) メッセージのアウトライン

①癒しの背景(1~3節)

②癒しの方法(4~8節)

③癒しの結果(9~11節)

結論:

(1) メシアニック・ジューとユダヤ教の伝統

(2) 祈りの答え

生まれつき足の不自由な人の癒しについて、学ぶ。

I. 癒しの背景(1~3節)

1. 1節

Act 3:1 ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。

(1) ペテロとヨハネ

- ①12使徒の中でイエスに最も近かったのは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネであった。
- ②ここでは、ペテロが主役で、ヨハネが脇役になっている。

(2) 午後3時の祈りの時間に彼らは神殿に上って行った。

- ①ユダヤ教では、神殿ないし会堂での祈りが日に3度行われていた。
 - *午前9時と午後3時の祈りは、必須の祈りであった。
 - *朝と夕のいけにえを捧げる時間に対応していた。
 - *夕のいけにえは、午後2時半ごろに捧げ始められた。
 - *正午の祈りは、自発的なものとして追加された祈りである。
- ②今日でも、正統派のユダヤ人は、日に3度祈りを捧げる(祈禱書を用いる)。
 - *朝の祈りはシャハリート(朝の光)。
 - *午後の祈りはミンハー(ささげ物)。
 - *夕べの祈りはマアリヴ(夕方)。
- ③敬虔なユダヤ人であった彼らにとっては、神殿に上ることは当然のことだった。

(3) イエスをメシアと信じる信仰とユダヤ教との分離は、徐々に起こった。

- ①初代教会の信者は全員ユダヤ人であった。
- ②彼らは、ユダヤ教の習慣を守ることになんの矛盾も感じていなかった。
 - *割礼の実行
 - *安息日の遵守
 - *食物規定の遵守
- ③初期の教会は、数あるユダヤ教の分派の中のひとつに過ぎなかった。
- ④教会と他の分派を区別する要素は、「ナザレのイエスはメシアである」という信仰告白である。

(4) ルカは、初期の教会がユダヤ教の習慣を守っていたことを非難していない。

- ①当時のユダヤ人にとっては、ユダヤ教は宗教生活だけでなく、社会生活や経済生活まで規定する規範であった。
- ②後に、異邦人を教会に迎える段階で、ユダヤ教の習慣の見直しが必要となった。

2. 2~3節

Act 3:2 **すると、生まれつき足のなえた人が運ばれて来た。この男は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しの門」という名の宮の門に置いてもらっていた。**

Act 3:3 **彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとするのを見て、施しを求めた。**

- (1) 「美しの門」(ニックネーム) がどれかについては、3つの可能性がある。
 - ①町の外から神殿域に入る門(今日の黄金門の辺り)
 - ②異邦人の庭から婦人の庭に入る門(これが、美しの門であろう)
 - ③婦人の庭からイスラエルの庭に入る門(ニカノルの門。②をニカノルの門と呼ぶ人もいる)

- (2) その門にひとりの男が運ばれてきた。
 - ①生まれつき足の不自由な人(40歳あまり)
 - * 「生まれつき」とは、この癒しの偉大さを示す言葉である。
 - ②施しを求めるために、毎日、そこに置いてもらっていた。
 - ③そこは、「物乞い業」の一等地であった。
 - ④エルサレム中の人たちが、この男の顔を知っていた。
 - ⑤荘厳な門と足の不自由な男の対比は、制度的宗教の無力さを示すものである。

- (3) ユダヤ教では、「施し」は賞賛されるべき善行とされている。
 - ①「施し」は、「ツェザカー」である。「正義」、「義」という意味。
 - ②ユダヤ人社会では、物乞いになるのは、他に方法がない場合に限定される。
 - * この男の場合は、友人たちが彼を手助けしている。
 - * 物乞いしか収入を得る方法がなかった(それで40年間生活してきた)。

- (4) 彼は、ペテロとヨハネが神殿に入ろうとするのを見て、施しを求めた。
 - ①施しを求めている相手が誰かを知らなかった。
 - ②彼らがどういう施しを与えてくれるのかも、知らなかった。

II. 癒しの方法(4~8節)

1. 4~5節

Act 3:4 ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。

Act 3:5 男は何かもらえると思って、ふたりに目を注いだ。

- (1) ペテロは、その男と個人的に関わることを開始した。
 - ①その男は単なる物乞いではない、神の愛の対象である。
 - ①「私たちを見なさい」とは、自分たちに関心を引きつけるための言葉ではない。
 - ②これから語ることに意識を集中させるための言葉である。

- (2) その男は、ふたりに目を注いだ。

- ①この言葉に従えば多額の施しを受けることができると、期待したのであろう。
 - ②通常は、小銭を投げ入れてその場を去って行くものである。
- (3) ペテロとヨハネは、金銭を与えようとしたのではない。
- ①もしそうなら、信者の群れに向って、持ち物を売ってこの男に施しをしようと呼びかけたはずである。
 - ②彼らは、力強い信仰を発揮し、それを通してメシアの力を示そうとした。

2. 6～7節 a

Act 3:6 **すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言って、**

Act 3:7a **彼の右手を取って立たせた。**

- (1) 「**金銀は私にはない**」
- ①これは、その男を失望させる言葉である。
- (2) 「**しかし、私にあるものを上げよう**」
- ①これは、その男に期待感を抱かせる言葉である。
- (3) 「**ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい**」
- ①これは、おまじないの言葉ではない。
 - ②ペテロは、自分には力がないことを表明しているのである。
 - ③イエス・キリストの代理人として、その權威によって命じている。
 - ④この言い方が、使徒の働きには23回出て来る。
 - ⑤それぞれが、イエス・キリストの權威の広がりと深さを証明している。
 - ⑥イエス・キリストの名を呼ぶことは、神の名を呼ぶことである。
- (4) 「**彼の右手を取って立たせた**」
- ①ペテロは、この男が歩き始めるために右手を取って立たせた。
 - ②この奇跡は、人間の側の努力と神の力が一つになって起こったものである。

3. 7b～8節

Act 3:7b **するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、**

Act 3:8 **おどりが上がってまっすぐに立ち、歩きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。**

- (1) この癒しは、瞬間的なものである。

- ①40年間歩いたことのない人が、瞬時に歩き始めたのである。
- ②「足とくるぶしが強くなり」は、医者ルカによる解説である。

(2) この男の動きが詳細に描写されている。

- ①「おどり上がって」
- ②「まっすぐに立ち」
- ③「歩きだした」
- ④「歩いたり」
- ⑤「はねたりしながら」

(3) 彼は、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。

- ①間違いなく物乞い業を失業するのであるが、彼にはそれ以上の喜びがある。
- ②彼は人生で初めて、異邦人の庭から婦人の庭に入ったのであろう。

*2 サム5:8 参照

III. 癒しの結果 (9～11 節)

1. 9～10 節

Act 3:9 人々はみな、彼が歩きながら、神を賛美しているのを見た。

Act 3:10 そして、これが、施しを求めために宮の「美しの門」にすわっていた男だとわかると、この人の身に起こったことに驚き、あきれた。

(1) 神殿の中では、彼は騒々しいので人目についた。

- ①彼は、歩きながら神を賛美した。
- ②歩くことができる能力は、神の賜物である。

(2) それを見た人々は、腰を抜かすほど驚いた。

- ①使用前：「美しの門」に座っていた男
- ②使用后：歩きながら神を賛美している。

2. 11 節

Act 3:11 この人が、ペテロとヨハネにつきまとっている間に、非常に驚いた人々がみないっせいに、ソロモンの廊という回廊にいる彼らのところに、やって来た。

(1) 「つきまとう」というよりは、「しがみつく」が正解であろう。

- ①「the man was holding tightly to Peter and John.」(NLT)
- ②肉体的にも、精神的にも、ひとり歩きは不安であった。

- (2) 彼が広告塔になって、驚いた人々が多数ペテロとヨハネのところへやって来た。
- ① ソロモンの廊とは、神殿の東側を南北に走る廊である。
 - ② ラビたちがそこで律法を教えた。討論も行われた。
 - ③ 屋根が付いているので、夏は涼しく、冬は暖かかった。
 - ④ かつて主イエスが教えた場所で、ペテロはメッセージを語る。

結論：

1. メシアニック・ジューとユダヤ教の伝統

- (1) 初期の教会では、イエスを信じる信仰とユダヤ教とは未分化の状態にあった。
- (2) この時期は、移行期である。
- (3) この時期に起きていることを、今の私たちに適用してはならない。
- (4) ヘブ 13:13

Heb 13:13 **ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。**

- (5) 現代のメシアニック・ジューはどうしているのか。
 - ① ユダヤ教の伝統から離れる人とそこに回帰する人がいる。
 - ② いずれにしても、ユダヤ教の伝統を守ることは救いの条件ではない。
 - ③ それを理解しているなら、メシアニック・ジューには自らのライフスタイルを選ぶ権利がある。
 - ④ ちなみに、異邦人はユダヤ教の伝統とはそもそも無関係である。

2. 祈りの答え

(ILL) 彼は「almsを求めたのに、足を得た」

- (1) 彼は、自分にとって良きものを求めた。それが施しである。
- (2) しかし、ペテロとヨハネは、最善のものを与えた。それが足の癒しである。
- (3) 神への願いは、聞かれていないと感じても、実は聞かれている。

(ILL) トマス・アクィナスが法王を訪問した時のこと

- ① 法王は、多額の金を数えながらこう言った。「金銀は私にはないという時代は終わった」
- ② トマス・アクィナスは答えた。「そしてペテロとともに、『ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい』と言えた時代も終わった。